

## 「本当に大切なものは目に見えない」

### コリントの信徒への手紙一 4章 18節

聖学院大学 人間福祉学部チャプレン 五十嵐 成見

聖学院大学のスクールモットーは、「神を仰ぎ、人に仕う」です。「人に仕う」、人に仕える、という言葉は皆さんにとっても、意味はわかるかと思います。隣人を、誰かを、支える働きをする、ということです。では、「神を仰ぐ」とは、いったいどういうことでしょうか。

最近、「神っている」！という言葉が流行語になっています。皆さんも、使うのではないのでしょうか。例えば、2016年に、プロ野球で2試合連続サヨナラホームランを放った広島カープの選手を、監督が「神ってる」と形容して評し、注目を集めました。「神ってる」、という言葉が、同年の、ある会社の流行語大賞の候補30語にも選出されたほどです。私も、面白い言葉だなと思って、どういう意味かを正確に調べてみました。調べてみたら、「神懸っている」さまを表現する省略表現で、若者言葉の一種、ということでした。「神懸り(的)」は、神霊を宿していると思わせるような超人的な技能、間の良さ、あるいは展開の都合の良さなどを表現する語のことです。

さて、「神ってる人」、皆さんのまわりにもいないのでしょうか。振り返ってみると、わたしのまわりには、「神ってる人」が沢山いました。

わたしは新潟県出身です。18歳の時、東京の大学に出てきた私にとって、まわりには「神っている人」がたくさんいるように思われました。垢ぬけていて、かっこよくて、頭がよさそうで、まわりから信頼されているように見える人だらけだったのです。大学のクラスに出ても、自分よりも、成績のよさそうで、実際に成績が優れている人がたくさんいました。高校では、私は割と上位の方の成績でしたけれども、大学に入ってみたら、特にたいしたことのない成績でした。また、当時私は、クリスチャン・サークルに入っていたのですが、学部ごとに選ばれる成績優秀者の中で、サークルの人の中から3人も選ばれていたのです！まさに、私のまわりには、神っている人だらけで、今までの培っていた自信というものを失いそうになっていました。

けれども、これは、大学の中だけのことだけではなさそうです。先ほどのクリスチャン・サークルに所属していた私の2つ上の国際政治経済学部先輩は、英語を堪能に話し、ワード・エクセル・パワポを使いこなし、ゼミ長をして、誰からも一目置かれるような人でした。就職活動も名だたる一流の会社の最終面接に何社も入り、最終的には、システムエンジニア関係で業界No.1と言われる会社に入りました。けれども、入社して半年後、久しぶりに会った先輩に再会した時、本当にがっかりした顔で、僕に、こんな話をしてくれたのです。

入社して最初の月、新入社員で、プレイスメントテストというのをやったそうです。新入社員の格付

けテストです。その結果をみて、能力に応じて、様々な部署に配置するのです。その結果、彼は 70 人くらいいた新入社員の内で最後から 2 番目の点数でした。しかも、結果が社内の掲示版に掲示されます。今まで、この先輩は、こんなに悪い格付けをもらったことも、仕打ちを喰らったこともなかった。つまり、大学までは、いわゆる「勝ち組」だったのです。けれども、会社に入るや否や、いきなり、一番下に近いところにランク付けされてしまった、というのです。その先輩は、言葉にはしていなかったけれども、いろんな失望感を味わっていたのだと思います。

皆さんも想像してみてください。もし、あなたが、この先輩と同じ立場だったら、どう感じるでしょうか、まわりが「神って」みえてくるのではないのでしょうか。そして、神っている人と自分を比べて、なんだか自分が、情けない人間に思えてくるのではないのでしょうか。

ただ、わたしたちは、多かれ少なかれ、このような出来事に似たことを経験しているし、また、していくのではないかと思うのです。私たちは、まわりの人の輝かしい姿を見比べて、おもわず自分の価値を自分で落としてしまうような心、あるいは、そうやって人と自分を見比べて、人のことを妬ましく思う心、というのが、あるのだと思います。あるいは逆に、自分が、まわりよりも何かに優れ、まわりよりも上にいると思うと、私達は、たちまち、まわりのことを見下そうとする心もまた、あるのだと思います。

そんな時、私達はどうすればいいのでしょうか。

こんな話を、聞いたことがあります。ある牧師から聞いた話です。例えば東京観光をする時、いろんな高層ビルディングを見る時、私たちは、いったいこのビルはどれくらいの高さがあるのだろう、ということに関心があるものです。六本木ヒルズは 238m、東京都庁は 243m、東京スカイツリーは 634m、という具合に。まるで私たちは一つ一つのビルです。そして、あのビルは私よりも低い、あのビルは私よりも高い、ということと比較しながら、自分が他のビルより高かったなら、偉ぶってみたり、逆に、低かったら、ヤキモキしたりしているのです。

けれども、この地上で高低を争っているビルを、上空 3000 メートルの空の上から見てみると、一体どうなるのでしょうか。何 m、何十 m、何百 m のたかさの違いなんて、たいしたことはありません。皆おんなじ点のようなビルにしか見えないのです

そして、神様が私達人間を見るまなざしは、この空から見るまなざしのようだと、この牧師はいいます。わたしたちは、この地上で、まるでどんぐりの背比べのように、高い・低いに興味を持ち、時にこだわり、それに対して、ヤキモキしたり、偉ぶったりしてみます。けれども、神様は、誰が地上で高いか、誰が低いか、などということに気にはなくて、誰しもが皆、同じ罪を持ち、しかも、誰しもが皆、愛すべき存在として、見ておられる、というのです。

本当にその通りだと思います。だから皆さんの中で、自分が周りよりも上だと思って、偉ぶっている人は、注意していただきたいと思います。神様はそのような私たちの罪の心を、深く見つめておられるからです。しかし逆に、自分が周りよりも下だと思って自信を無くしている人は、ぜひ、安心していただきたいと思います。あなたの命の価値は、あなたの人生の価値は、そんな私達人間がするようなどんぐりの背比べによって図られるものでは決してないからです。私たちのいのちの価値は、ただ一人、天におられる神によって、図られているからです。神は、どんなあなたであっても愛されるのです。

「神を仰ぐ」と、聖学院大学のスクールモットーは語ります。私たちは、このような「神」を仰ぎます。この神さまは、決して目には見えません。けれども、この目に見えない神が、目に見えるどんな人間よりも、あなたを愛していらっしゃる。今日の聖書の箇所にあるように、大切なことは、この見えないもの、見えない神に目を注いでいくことではないでしょうか。私たちは、このような神を仰いで、大学生活を過ごすことができます。それは、なんと幸いなことではないでしょうか。

この神様を仰ぎに、いつでもまたこのチャペルに来てください。

2017年4月13日 聖学院大学 全学礼拝